

年長組(5歳児) 11月指導計画 あやめ台幼稚園

予想されるこどもの姿	経験・活動、行事	家庭・地域との連携	アプローチのポイント
<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことを楽しみ、積極的に走ったり鬼ごっこをしたりする 自然の変化に気づき、木の実や落ち葉を集めたり、比べて違いについて考えたりする 就学時健診で小学校に行くことに期待をもち、自分の行く小学校について友だちと会話を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 陶芸遊びまたは木工遊び 園生の森散歩 体力測定 幼保小交流会 避難訓練(抜き打ち) 修了アルバム個人写真撮影 参観日(陶芸または木工) 消防署員による防災指導 誕生会 年中、年少と合同ランチ 担任交換 運動会(10月から延期) 	<ul style="list-style-type: none"> 森に行く際に寒くないよう上着の着用を呼びかける 参観日の活動内容やねらい、持ち物、お願いなどを伝える 就学時健診を受けるにあたって、園に迎えに来る時間を伝える 抜き打ちの避難訓練のため、家庭でも訓練の予定について子どもに話さないようお願いする インフルエンザや風邪の予防として、手洗いうがいやマスクの着用などを呼びかける 上着を着る際はフードのない服を選ぶよう伝える 交流会では小学生と幼児が互いにすすんでかわりをもてるよう、会のプログラムや配慮点を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 気候の変化に合わせて生活習慣を整えたり意識して体を動かしたりする必要性に気づき、健康な体づくりを心がけられるようにする 運動会に向けた活動を経て強まったクラスの団結力や、話し合ったり考えたりする力を継続して養えるようにする

ねらい(以後継続するねらいも含まれる)	援助・配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 手洗いうがい、マスクをするなど意識的に行い風邪やインフルエンザの予防に努める 汗の始末や着替えをして体調管理をする 日本の伝統的な行事である七五三について知る 勤労感謝の日や働くことの大切さを知り、働いている人への感謝の気持ちをもつ さまざまな仕事(職業)があることを知り、身の回りの環境や仕事に興味をもつ 教師や友達など誰も見ていないところでも決められた約束を守る(トイレの使い方、自分の使った物を片付けるなど) 秋から冬への変化に気づき、不思議さや面白さを感じる 自分たちで気づいて衣服や姿勢を正したり、身の回りの環境を整えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 昼食の時間を小学校と同じように20分で区切り、時間を意識できるようにする 七五三という行事を知り、千歳飴をもらったり絵本で由来を知ったりすることで自ら興味をもてるようにする。また、行事の前後に昨年したことや今年どんなことをしたのか振り返る⑤ 勤労感謝の日に感謝をどのようにして伝えるのか一人ひとりが考えて、それを実行できるように指導する⑤ 身の回りに「働く人」がいることに気付けるように話を⑤ 祝日の意味を知り、本やクイズなどを通し理解できるようにすることで、言葉や行動につながるよう配慮する⑤ 子どもたちと、働いている父親や母親、祖父母などについて話し合い、働くことの大変さや大切さに感謝の気持ちがもてるように話し合う。 音楽表現では、ピアノの音に合わせて動いたり動物になりきって遊んだりして体を動かす。⑩ 何のために決められた約束なのか改めて再認識する機会をつくり、人が見ていなくても約束を守って行動できる大切さを理解できるよう配慮する④⑤ 手洗いうがい、咳エチケットなどの大切さを再確認し、習慣として行えるよう指導する①④② 指の間や手首まで洗う正しい手洗いの仕方や、喉の奥まで洗えるうがいの仕方を伝えていく① 	<ul style="list-style-type: none"> 内外の気温や室温に応じて重ね着などをし、丁度いい温かさを保てるように声かけする①② 少しずつ肌寒い日が増えるので風邪をひきやすいことを伝え、運動後の着替えや汗の始末をするよう指導する① 上着の前が開いていると引っかかって危険だったりだらしなく見えたりすることを理解し、すすんで閉められるように声をかける② 脱いだ後は裏表を直し正しくたためるように、また、はみ出ないようにリュックや袋にしまうよう呼びかける② 身支度をした後友だち同士で確認し合うよう声かけする③④⑨ 寒い日でも水分補給をこまめに行う重要性を伝える① ランドセルや学習機の購入など、入学への準備の話題が出たら拾い上げ、期待が高まるようにする② 就学時健診では小学校の先生の話をよく聞いて行動できるよう伝える④⑤ 就学時健診に行った小学校の様子について話し合っ、期待感をもてるようにする⑤② 寒くなってくると暖房器具による火災が増えることを伝え、火の扱いは充分注意しなくてはいけないことを知れるようにする① 人の話をきちんと聞くことの大切さに気づけるように話を④⑤ 自分の食べこぼしに注意して、片付け後に周りをきれいにできるように声をかける⑤④

<10の姿>①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字への関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

	ねらい	内容	環境構成	援助
第1週	<ul style="list-style-type: none"> 自分が行う劇の内容をより深く理解し、友だちとイメージを共有する クラスで心一つにして劇を成功させようという目標をもつ 参観日で作る作品(陶芸の皿や木工作品)のイメージを明確にする。また、道具の使い方を知る 油粘土と土粘土の違いを知り皿づくりの流れを理解する ものを自分で考えて作り出す楽しさを味わう 春と秋でどのように自然が変化するのか意識して観察する 森での約束を守って楽しく散歩する 年下の幼児に親しみをもち積極的にかかわったり世話をしようとしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと考えを出し合っせりふや内容を考え、指人形劇(またはオペレッタ)の台本作りを楽しむ 観客の気持ちになりながら、よりよくするための流れや表現の仕方を話し合う こねる、丸める、のぼすなどの様々な手法を使って、自分のイメージした形を作ることを楽しむ 金づちやくぎ、のこぎりなど、木工に必要な道具の名前や安全な扱い方を知り、実際に行ってみる 作りたい作品のイメージに近づけるために必要な物や方法などを考え実行する 	<ul style="list-style-type: none"> 劇の元となる絵本を置いておき、せりふや道具に必要なものを考えられるよう配慮する② 元となる台本を用意し、変更したい言葉をその場で書き込めるようにする⑧⑨ みんなで作ったせりふや歌を台本、歌詞カードにおこし、子どもたちがすすんで練習できるようにする② 子どもたちのイメージが膨らむように、教師や他の友だちが作った作品を例として用意する⑧⑥ 大小さまざまな木片を用意して、子どもが使いたいサイズを自由に選べるようにする⑧⑩ 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考えてせりふを考えたり読んだりできるよう、全員で想像する機会を設ける⑩ 子どもたちの発想や意見を尊重して、みんなで相談しながら台本作りや小道具、衣装作りを進めていく楽しさを味わえるようにする③④⑥ 劇に必要な小道具・大道具を一人ひとりが考え、実際に作れるような素材を話し合って見つけていけるようにする。⑩ 見ている人に劇の内容がより伝わりやすくするためにどうしたらよいか、言葉の言い回しを考えたりどんな大道具、小道具が必要か考えたりできるように話し合いの時間を十分に設ける⑥⑧⑧ 指人形劇の劇中に歌やみんなで言うせりふを入れ、自分の出番以外の劇も一緒に参加できるようにする③ 木工あそびや陶芸あそびで運転手さんに援助してもらって、さまざまな人とかかわって活動する楽しさを味わったり憧れをもったりする⑤ 手を添えて、ちょうどよい力加減で道具を扱えるように伝えていく⑥② 扱い方によってどんな危険があるのか伝え、ふざけないで真剣に取り組めるようにする④② 友だちの作った皿を見て、自分との違いや良さに気づけるようにする⑩⑨ きり、カンナ、のみなどの道具の名称を伝え、実際に使用するところを見せて小学校以降の経験に期待がもてるようにする 「ます」や「うす」「鉛筆」など、身の回りの木で作られている物に関心をもてるようにする
第2週	<ul style="list-style-type: none"> 災害に対する意識をもち、どんな時でも自分で考えて安全に行動しようとする 音楽に親しみ、さまざまな楽器の音色や演奏する時の感触を楽しむ 指人形遊びに興味をもち、なりきることを楽しむ 身近な英語に親しみ、ECCの教師と一緒に楽しんで活動する 友だちと声を合わせて歌う楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 園生の森に散歩に行き、秋の森の様子や春に来た時との違いを観察する 年上の自覚をもって年中児の手を引いたり声をかけたりしながら森の散歩を楽しむ 地震や火災の発生に気づいたら、災害時の行動の仕方を思い出し避難の際の約束を守って安全に行動する 非常口の位置やマークを確認しながら避難する 	<ul style="list-style-type: none"> 春に森に行ったときの写真を見せて、どんな様子だったか思い出せるようにする⑦ 特に配慮が必要な幼児に関して、年中児の担任と話し合い、誰とペアにするか決めておく⑤② ドングリ、キノコなどの写真絵本を並べておいて、見るができるようにする⑦⑧ 訓練があることは知らせずに抜き打ちで行い、緊急時に子どもたちがどれくらい行動できるのか把握する②④⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の渡り方や歩き方など、注意点を思い出し年中児を守りながら歩く自覚をもてるよう話を②④⑤ 道路にある標識にも気づけるように声かけする⑤⑧ 園で感じられる自然の変化と、森の中で感じられる変化にどのような違いや同じところがあるか、意識して見られるように声かけする⑦⑩ 入口にある森の掲示板で、森の中での約束を確認し環境を守る意識をもちながら散歩できるようにする④⑤ 植物につけられている札の字を読み、なんという植物か知ることができるようにする⑧⑦ 約束を思い出し、保育者の指示をよく聞いて落ち着いて行動できるように声かけする①② 防災扉を開める際は子どもが手や指を挟まないよう注意を呼びかける① 地震が起こったときには保育室の中の安全なところに集まること、火災のときは低い姿勢で避難すること、防災頭巾の役割について訓練を振り返りながら考えられるように話を① 災害時の様々なパターンを子どもたちと考え、その際の行動を確認する時間を定期的にする② 訓練のときだけではなく、いつ、どこであっても「今地震が起きたらどうするか」と考えられるよう、折をみて話題にあげて子どもが意識できるようにする② 避難訓練後は自分がクラスにいなかった時や、近くに教師がいない時にどうしたらよいか考えられるよう話し合う② 火災が起こった場所によって避難経路が異なることを伝え、自分たちでも考えられるようにする②

	<ul style="list-style-type: none"> ・鼓笛に使う楽器の名前や扱い方を知り、すすんで触れて演奏を楽しむ ・完成した指人形で自由に遊び、使う感覚をつかむと共に愛着をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に触れられるように保育室に楽器のコーナーを設定し、自分が担当する以外の楽器にも触れて楽しめるようにする③④ ・メロディやリズムの楽譜を見やすい場所に設定し、自分で見ながら練習できるようにする②⑧ ・指人形を置く台を設置し、子どもが好きな時に指人形を使えるようにする④ ・屋台(お店やさん)ごっこを楽しんでいる時に、BGMに収穫まつりで踊った曲を流し、遊びが発展するように配慮する⑩ 	<ul style="list-style-type: none"> ・防火扉の近くで遊んだり走り回ってぶつかったりすると危険なこと、防火シャッターも押してしまうと危険なため触らないことなど再確認する④ ・非常口だけでなく、他にも様々な標識、マークがあることを伝え、園内だけでなく家や外出先など、日常でも意識できるようにする⑥⑧ ・安全な使い方をしているか、目を配り必要に応じて声かけする② ・子どもの動かす人形と会話し、役になりきって演じる楽しさを味わえるようにする⑩⑨ ・劇の話し合いでは、全員が意見を伝えられるように発言の場を設ける⑨ ・ECCのレッスンで出た単語などをその後も保育の中で取り上げ、日常の中でも英語に親しみをもてるようにする⑧⑤ ・収穫まつりで踊った曲は、今後も自由に取り組めるように機会や場を設ける⑩① ・捕まえてきた虫はクラスで一緒に育てる。また、食べ物などは本で調べる。また、死んでしまった時は埋めてお墓を作り、命の大切さに気づけるようにする⑦④ 	
第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校がどんなところか知り、入学に期待をもつ ・具体的なイメージをもち自分で作り上げる楽しさや協力する楽しさを感じる ・物(木材や粘土)の性質に気づく ・さまざまな良さがあることに気づき、受けとめ認め合う ・体を自分の思ったとおりに動かして遊びを楽しむ ・体力測定に参加して自分の成長の様子を知る ・記録が伸びるよう努力し、達成感や充実感を味わう ・練習や繰り返して取り組むことの大切さを知る ・ルールを守りながら遊ぶ楽しさを味わう ・考える楽しさや自分と異なる意見があることに気づき、伝え合う大切さを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会に参加し、小学生の司会を見たり一緒に歌ったりして楽しく過ごす ・保護者とイメージを共有して、一緒に陶芸の皿作りや木工作品作りを楽しむ ・親子で作品を作る楽しさを味わうとともに、自他の作品の良さに気づき、認め合う ・体力測定を行い、体のさまざまな部分を意識して動かす ・積極的に体を動かし集団遊びを楽しむ ・ルールを守ることで遊びが楽しくなることを知り、子ども同士で意識して声をかけあう 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方や手順、道具の置き場などを分かりやすく図で表示する③⑥⑧ ・過去の作品を見せて、保護者も作品の完成イメージをもてるようにする ・陶芸用粘土は、あらかじめ人数分を切り分けておく ・完成後、数日間は保育室で乾燥させ、固さや色の変化にも気付けるようにする⑥ ・園庭に測定用のラインを引いておき、外遊びの時に子どもが自由に行えるようにする①⑧ ・ドッジボールなどの遊びの中で、負けを知ることで勝つ喜びも何倍にもなることやお互い頑張ったことに気づけるように声をかけ、負けも楽しめるように配慮する③ ・ルールに沿ってサッカーやドッジボールなどを行う楽しさを味わえるように、ルールを明確にして伝える④ ・寒くなり室内で過ごすことが多いので、外で体を動かすことの楽しさを伝え、クラス全体で楽しんだり考えながら取り組んだりできるようにする①③ ・全員で様々な種類の鬼ごっこに取り組む(鬼はやったことのない人、作戦やルールを室内で話し合ってから外に出る)① ・縄跳びはまわして跳ぶ以外の活動も行い(置いてある縄を左右に跳ぶなど)苦手ではなく面白さや新たな発見にもつながるようにする① ・ゲームをする際は、自分たちで考えたあそびを発表して全員でやってみる機会を作る③ ・やってみたいゲーム遊びを友だちと考えて、友だちと決める楽しさや、考え直す・よりよくする発見の面白さを味わえるよう時間を作る③⑨ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽フェスティバルで小学校に来たことを振り返り、再び体育館で活動できることに期待をもてるようにする⑤ ・保育園児や小学生との交流を図り、積極的にかかわりをもって楽しめるよう配慮する⑤ ・同じ小学校に行くかもしれないことを伝え、保育園の園児にも親しみをもてるよう声かけする①⑤ ・参観日の前に陶芸あそびを経験しているため、当日は子ども主体で保護者とのかかわりを楽しめるようサポートする②⑧⑩ ・製作は全てを保護者が行ってしまうのではなく、子どもの発想を大切に援助を頼み、子どもが作ったという満足感、充実感を得られるような援助を頼む(形作りや模様付けなど)⑩ ・粘土(陶芸用)はなるべく大きく形をとるように伝え、大切に扱えるようにする。また、余った粘土は処分せずに次回また使えることを伝える④ ・のし棒やたたら板など普段馴染みのない道具にも興味をもてるようにする⑤ ・かまや釉薬を見学し、皿がどのようにできあがっていくのか見通しがもてるよう配慮する⑤ ・さまざまな種類の粘土の感触に気づき、どのように作られているか、できあがりの差は何か分かるようにする⑥ ・人の力でさまざまな物が作れることや、大工や陶芸家などの職業があることも伝えていく⑤ ・作品が完成したら作品展を行うことを伝えて、友だちに見てもらうことに期待をもてるようにするほか、友だちの作品の良いところや工夫したところに気がつけるようにする⑤ ・園で行ったことを家庭でもやってみようと思えるような声かけをする⑤ ・昨年の記録を目安にしてより良い記録を出せるように励ます⑧② ・年中時の記録を振り返り、自分や友だちの成長を喜べるように話をする⑧④ ・どこの筋肉を使う動きなのか一緒に考え、意識しながら投げたり跳んだりできるようにする⑥①
第4週・第5週	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものを使った調理に興味をもつ ・人とのかかわりの中で自己を意識して過ごし、その場にふさわしい行動をとる ・意欲的に発表する演目の練習に取り組み、よりよい内容にするために工夫しようとする ・植物の生長に気づき、愛着をもって育てる ・他クラスの教師にも親しみを持ち、一緒に楽しく活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリンの収穫や加工を観察し、カリンの特徴を知りジュースの完成に期待する ・合同ランチを行い、異年齢の友だちとの交流を楽しむ ・年下の幼児と楽しく遊びためにはどんな配慮が必要か考えようとする ・植木鉢や水栽培の水仙を観察してそれぞれの変化や違いに興味をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように変化するかを確認できるように見やすい場所にピンを置く ・異年齢児でかかわりをもてるように環境構成や言葉かけを工夫する⑤ ・普段は見えないイメージだけだった「根」の部分を視覚的に捉えられるようにする⑥⑦ ・子どもたちが観察しやすいように目の届くところに水栽培の鉢を置き、根にペンで印をつけて生長がわかりやすいようにする⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリンの香りやつるつるした表面が少しベタベタしていること、硬さや縦と横に切った時の断面の違いなどを五感で感じられるようにする⑦⑧ ・梅ジュースを作る時との違いに気づけるよう呼びかけていく⑥ ・合同ランチでは、年長の自覚をもてるよう昼食中や自由遊び、ふれあい遊びなどで自発的に動けるように配慮する② ・年中少とのかかわりの中で最年長児としての自覚をもてるよう声かけ、配慮をする② ・種と違って球根は多少土が乾いても大丈夫なのはなぜなのか考えられるように話をする⑧⑥

<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで目標を定め、達成する喜びや満足感を味わう ・伝えたいイメージを形にする楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任交換を行い、違う教師との触れ合いやかかわりを楽しんだり緊張感をもって行動したりする ・友だちと相談して劇の背景画を描いたり、発表の方法を考えたりする ・他のクラスを見て、取り組みの姿勢などよいところに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・指人形の台（ステージ）を出しておき、発表に期待感をもてるようにする ・互いに発表を見合えるように、練習の時間を調整する ・楽しく覚えられるようにせりふを大きな紙で貼り出し、練習するごとに名簿にシールを貼って目で見える達成感ややる気を味わえるようにする② ・歌詞カードを貼り出し、子どもたちが間違いやすい所などはそのつど印をつけて分かりやすくする⑧② 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教師とコミュニケーションをとりかかわりを楽しんだり、自己をアピールしたりできるようにする⑤ ・受け持ちではないクラスを客観的に見て、そのクラスのよさに気づき子どもたちに伝え、自信をもてるようにする②④ ・友だちと息を合わせてせりふを言えるように同じ役同士で一緒にせりふの練習を行えるようにする③ ・他の役にもなってみて、友だちの苦労や気持ちを知った上で発表を迎えられるようにする③ ・指人形の台の使用する上での約束や注意事項を確認して、安全に活動を楽しめるようにする④ ・指人形の向きを考え、お客さんの気持ちを予想しながら友だちと意見を出し合って進められるようにする⑥ ・絵本からどの場面を背景にするか話し合い、劇ごとに自分たちで分担できるようにする⑨⑩ ・せりふを覚えて発表したり、台本ゲームをしたりして楽しみながら体全体で覚えられるようにする。⑩ ・指人形劇や歌の発表では子どもたちが工夫した点や個々のよい点について、友だち同士で認め合える雰囲気作りをする③④⑨ ・どこが良かったか、何を工夫することができるか、自分たちで評価し、課題を見つけていけるような雰囲気作りをする③ ・日々の劇練習において、友だちと目標を決めて意欲的に練習へ参加できるようにする③ ・自分たちが楽しむだけではなく、見に来てくれる人たちも楽しむためにはどうしたらよいか考えられるように声かけをする③ ・友だちと劇を発表し合い、より良くするためにはどこを工夫すると良いか互いに気付けるようにする⑨ ・発表を他クラスに鑑賞してもらい、感想をもらうことで新たな意見に気付き、より良くしようと思えるように配慮する⑩ ・さまざまな声の出し方を経験し、友だちと聞き合えるようにし、きれいな声を探していく機会を設ける①⑩ ・歌う際に、姿勢や声の大きさ、出し方を意識したりグループごとに聞かせ合ったりする時間をつくる② ・自分だけでなく友だちの意見も聞いたうえでよい所を合わせて取り入れていけるよう助言する③④
---	--	--	--